



## 教えて！実教出版編修部 (簿記編)

弊社の編修部には、教科書や問題集などについて様々な質問や要望が寄せられます。そのなかから、多くの指導者が一度は疑問に持つと思われる質問とその回答を特集します。今回は簿記編です。

### Q1 損益計算書の当期純利益の表記は赤？黒？

損益計算書の当期純利益について、旧課程の教科書では赤字表記であったが、現在の教科書では黒字表記になっている。その理由を教えてください。

**A1** 旧課程の教科書では、赤字表記を原則とし、側注に「実務では赤で記入しないことが多い。」と書かれていました。赤字表記を原則としていた理由として、当期純利益を費用の側（借方）に書くからとか、当期純利益は貸借差額で計算するからなどがありました。

しかし、現在の教科書では、次のような理由で黒字表記を原則としています。

①赤字表記をしているのは高校の教科書だけである。②赤字表記に学問的根拠があるわけではない。③教科書の側注で、実務では赤で記入しないと謳っておきながら、これまでの慣習だからという理由で残しておく必要はない。

なお、弊社発行「じっきょう商業教育資料81号」で横浜国立大学の原俊雄教授が本テーマについて歴史的資料に基づいて解説しています。

### Q2 貸倒償却勘定は今？

高校の簿記の教科書では、かつて「貸倒償却勘定」を使用していたが、現在は「貸倒引当金繰入勘定」に変更されている。なぜ、変更されたのか？

**A2** 高校の教科書では、昭和20年代から平成20年代前半までの長い間、貸倒償却勘定を次の4つのケースで用いていました。

①貸倒引当金が設定されていない場合の貸倒額を処理する勘定として ②期末に貸倒引当金の見積高を計上する勘定として ③貸倒引当金残高を超える貸し倒れが発生した場合の超過額を処理する勘定として ④当期の取引から生じた売上債権の貸し倒れを処理する勘定として

上記のうち、②は貸し倒れの見積もりですから、明らかに他の三つのケースとは異なります。そこで、②については、多くの簿記書で用いられている「貸倒引当金繰入勘定」を用いることとしました。また、①③④については、貸し倒れの発生によって損失が生じたことをより明確に示すために「貸倒損失勘定」に変更しました。

### Q3 資本は純資産に置き換わった？

実教の簿記の教科書は、資本と純資産が混在している。純資産に統一しない理由を教えてください。

**A3** 現行の企業会計制度では、資本と純資産の概念は異なりますから、純資産に統一することはできません。ただし、個人企業では評価・換算差額等と新株予約権は存在しないため、結果的に資本と純資産の金額は一致します。

そこで弊社の簿記の教科書は、貸借対照表の表示項目のみ「負債および純資産」とし、その他の説明文や図解などは、『新簿記』ではp.16以降、『高校簿記』ではp.15以降、一貫して「資本」を用いています。その結果、資本等式や資本の引き出しなどの用語についても従来どおりの説明が可能です。なお、貸借対照表の表示項目を「純資産」としたのは、会計法規が指示しているからです。

仮に、資本を純資産に置き換えた場合、資本等式は純資産等式に変更しなければなりません。この用語は会計学辞典にはありません。また、資本の引き出しを純資産の引き出しということもで

きません。純資産は差額概念ですから、引き出すことは不可能です。さらに、期末資本－期首資本＝当期純利益の計算式は、資本の箇所を純資産に変更して、期末純資産－期首純資産＝とした場合、右辺は当期純利益では誤りで、包括利益にしなければなりません。このように純資産に統一すると簿記の基本原理の説明に問題が生じます。

以上の詳しい解説は、弊社発行「じっきょう商業教育資料 93 号」に横浜商業高校の粕谷和生先生が行っています。

#### Q4 し・くり・くり・しって？

いわゆる「し・くり・くり・し」の仕訳は、決算整理仕訳として位置づけられているが、「し・くり」の部分は、本来、期末ではなく期首に行われるべき仕訳ではないか？

**A4** 売上原価を仕入勘定で算出する場合、決算整理仕訳は次のようになります。

(借) 仕 入 × × × (貸) 繰越商品 × × ×  
(借) 繰越商品 × × × (貸) 仕 入 × × ×

上記の仕訳の一本目「し・くり」の部分について、横浜国立大学の泉宏之教授は「本来は期首に再振替手続きとして行うべきである。」としています。(『財務会計論 基本論点編』中央経済社 p 70)

Q 4 を整理してみます。決算日に期末商品棚卸高について次のように仕訳します。

(借) 繰越商品 × × × (貸) 仕 入 × × ×

これは、期間損益計算を適正に行うための「費用の繰り延べ」の仕訳です。この仕訳を再振替すると、仕訳は次のようになります。

(借) 仕 入 × × × (貸) 繰越商品 × × ×

再振替仕訳は本来、翌期首に行うのに、なぜ、期末に行うのかというのが Q 4 の質問の趣旨です。

この質問は、編修部だけでは対応しきれないため、著者の先生をはじめ多方面にお尋ねしました。その結果、いろいろな回答があり、ここでは、編修部が選んだベストアンサーを紹介します。

期末の費用の繰り延べとそれに伴う翌期首の再

振替は、費用の支出額を発生した会計期間に配分する期間損益計算の手続きです。一方、「し・くり・くり・し」の仕訳は、期間損益計算が行われるずっと前から売上原価を算出するために期末に行われていたものと考えられます。

したがって、「し・くり」の部分の仕訳は、期間損益計算の立場からすれば、翌期首に行われるべき再振替仕訳にあたりますが、売上原価の算出を目的とする立場からすれば、期末に決算整理仕訳として行っても一定の合理性があるわけです。

#### Q5 T 勘定 (T 字形) の締め切り

勘定の締め切りは、金額欄と日付欄の両方に締め切り線を引くのが正式な方法である。しかし、新簿記 p.188～189 や高校簿記 p.172～177 などの T 勘定 (T 字形) では、日付欄を締め切っていない。日付欄を締め切らない理由は何か？

**A5** 学習簿記では、標準式の勘定口座ではなく、略式の T 字形を用いて学習ポイントを借方と貸方に絞り、効果的な簿記原理の指導を実現しています。また、略式であるがゆえに、記入作業の一部 (仕丁欄の記入・日付欄の締め切りなど) を省略して生徒の負担を軽減しています。

ご指摘いただいた件については、かかる理由で日付欄の締め切りを省略しているというのが回答です。したがって、省略せずに日付欄を締め切ったとしても、もちろん構いませんし、その方がより丁寧です。

なお、昭和 30 年発行の簿記の教科書を確認しましたところ、現行の教科書同様、T 字形の場合は金額欄のみを締め切り、日付欄の締め切りは省略しています。簿記の教科書や問題集では、日付欄の締め切りは T 字形の場合、省略するのが慣例となっているようです。

#### Q6 小口現金の補給時のお勤めの仕訳は？

小口現金の補給時の仕訳において、小口現金勘定を使う方法と当座預金勘定だけで処理する方法の二つがあるが、実教の教科書が前者を推奨して

いる理由は何か？

A6 質問にある二つの方法を整理します。まず、第一の方法は、小口現金の支払報告を受けた時に次の①の仕訳を行い、小切手を振り出して補給した時に②の仕訳を行う方法です。

① (借) 交通費 × × × (貸) 小口現金 × × ×  
通信費 × × ×  
雑 費 × × ×

② (借) 小口現金 × × × (貸) 当座預金 × × ×  
これに対して第二の方法は、報告と補給が同時に行われることを前提に、上記①と②の小口現金勘定への計上を省略して次のように仕訳します。

③ (借) 交通費 × × × (貸) 当座預金 × × ×  
通信費 × × ×  
雑 費 × × ×

弊社の教科書では、第一の方法を推奨しています。理由は、第二の方法では定額資金前渡法を採用しているにもかかわらず、小口現金勘定に一切記録がされません。また、報告と補給が同時であったとしても第一の方法によれば、取引の内容をより明確に示すことができるわけです。

掲載の「じっきょう商業教育資料」バックナンバーは、弊社 Web ページよりダウンロードできます。

## 指導資料 NHK 高校講座 簿記



多くのご要望をいただきました「簿記」がいよいよ登場です。見どころや活用のご提案は、本資料 106 号で詳しくご紹介しております（弊社 Web ページよりダウンロードできます）。

損益計算書

費用	金額	収益	金額
給 料	40000	商品売買取	150000
支払利息	10000		
当期純利益	100000		
	150000		150000

経営成績を明らかにする損益計算書

収益・費用の発生

仕入価額20万円の商品を  
1月10日 30万円で売り渡し代金は現金で受け取った

第3回 もうかるとは？ - 収益・費用 -

① 収益と費用の意味について、わがび先生は何と言っていたか、次の各文の ( ) のなかに最も適切な用語を記入しなさい。

① 収益とは、経営活動によって ( ) が増加する原因となることばをいう。  
② 費用とは、経営活動によって資本が ( ) する原因となることばをいう。

② 莉奈ちゃんと同僚君が取り組んだ実践簿記演習にチャレンジしてみよう。なお、下記の ( ) のなかに、金額または用語を記入すること。

1月1日のさくら商店の資産・負債・資本の金額は、次のとおりであった。

1月1日の資産・負債・資本の金額			
現 金	200,000	買 掛 金	30,000
売 掛 金	100,000	借 入 金	350,000
商 品	300,000	資 本 金	600,000
備 品	400,000	資 本 金	600,000

1月6日に「商品 ¥100,000 を仕入れ、代金は掛けた」という取引があった。資産・負債・資本の金額はどのようになるか？

1月6日の資産・負債・資本の金額			
現 金	300,000	買 掛 金 ( )	( )
売 掛 金	100,000	借 入 金	350,000
商 品	( )	資 本 金	600,000
備 品	400,000	資 本 金	600,000

1月1日と6日の表を比較すると、資本金はともに ¥600,000 で変動していない。よって、1月6日は収益と費用は発生していない。

1月10日に「仕入価額 ¥200,000 の商品を ¥300,000 で売り渡し、代金は現金で受け取った」という取引があった。資産・負債・資本の金額はどのようになるか？

1月10日の資産・負債・資本の金額			
現 金	( )	買 掛 金	150,000
売 掛 金	100,000	借 入 金	350,000
商 品	( )	資 本 金	( )
備 品	400,000	資 本 金	( )

1月6日と10日の表を比較すると、資本金が ¥( ) 増加している。その増加の原因は、( ) という収益である。

ワークシートで確認

DVD 2 枚セット 定価 (本体 32,000 円 + 税) ※ ワークシート・解答は弊社 Web ページに用意  
企画・制作：NHK エデュケーションル 発行：NHK エンタープライズ 販売：実教出版株式会社 ©2018 NHK

内容解説資料  
2018年2月15日 発行

© 編修・発行

実教出版株式会社

代表者 戸塚 雄式

発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町 5

TEL. 03-3238-7777

http://www.jikkyo.co.jp/